

トルコの大地に 和太鼓が響く

まつりね
和太鼓祭音・代表 山本 忠利さん

一行がカイセリ空港に到着すると、真っ赤な衣装の軍樂隊が華やかなトルコのマーチの演奏を始めた。「えっ、誰の歓迎？」と思いきや、これは私たち祭音を迎えてくれる演奏だったのだ。演奏を聞くうち、じっとしていられなくなる。「お返しだ！」ということで、さっそく私たちもその場でエイサーを踊る。気合いが入っている。みんなノリノリだ。

こんなふうにして、私たちのトルコの旅は始まった。バスに乗り換え、カイセリ空港から奇岩の町カッパドキアへ向かう。数十キロにわたって延々と奇岩の大地が続く。とにかく規模が雄大で、目を見張る風景なのだ。そして、その広大な地域丸ごとが世界遺産なのである。

私たちはこのカッパドキア地域のウルギュップ市から^{しょうへい}招聘を受け、8月20日から29日までの和太鼓・民舞公演の旅に出た。今回の旅では、チャウシン村という小さな村の広場で、普通に暮らしている村人達に見てもらう公演、伝統芸能集団との交流公演、キャラバンサライ隊商宿^こでの2時間公演、世界遺産・パムッカレの石灰棚での2時間公演、最後はイスタンブルでの伝統芸能集団との交流公演であった。

どの公演も心に残る忘れがたいものだったが、中でもパムッカレの石灰棚での公演は印象深い。石灰棚はちょうど棚田のような形をしている。ここには温泉が湧いていて、その中に含まれる微量の石灰が何億年もの時間をかけて堆積し、雪化粧したような真っ白な石灰の棚田を造ったのだ。世界遺産なので通常入場者は裸足^{はだし}になって観光する。ところが、今回はこの石灰棚の中を特別に公演会場として許可してくれたのだ。

始まる時間には500名を超える人たちが待ちかまえている。続々入ってくる観光客。演奏が始まると観客が



世界遺産 パムッカレでの演奏

層を厚くしていく。多いときには2000人に達しただろうと、現地の関係者が話していた。抜けるような青い空と真っ白い石灰岩の



上に、色とりどりの華やかな衣装が映える。黄色いハッピが躍動する。後陣乗太鼓のお面を付けての太鼓に食い入るように身を乗り出す。渾身の力でうち下ろすバチが次々に折れる。演じる側も観る側も、気が入っているのが分かる。2時間の演奏時間があつという間に終わった感じがした。最後の秩父屋台囃子の機関車のような太鼓が終わる。スタンディングオベーションで応えてくれた観客と、そこにいた私たちみんなを、真っ赤なトルコの夕日が照らし出していた。

どの会場の公演も同じように忘れがたい感動を体験した旅だった。

今回かわさき国際友好使節（K.I.F.A）としての役目を託され、川崎市国際交流協会会長からウリュウギュップ市長に宛てたメッセージを携えての旅でもあったが、無事その役割も果たした。全体で3000名以上の人々に、日本の太鼓と民舞を見てもらうことが出来た。

文化は一瞬にして人々の心を結ぶことを実感した。この旅の主役だった小中高校生、大学生ら若者たちは、イスラムの家庭にホームステイし、異文化を体験すると共に、立派に文化使節としての役目も果たした。

若者たちが伝統芸能を通して国際交流に寄与できたこと、公演を成功させて自分たちの活動に自信を深めたことが何より大きな収穫であった。

国際交流センター有料施設のご案内

ホール（264名）、会議室7室（10名～36名）
レセプションルーム（150名）、料理室（24名）
等があります。どうぞご利用ください。

044-435-7000

トルコ一郎

川崎市国際交流センター内 044-455-1109

シングル¥6000 ツイン¥10500 車椅子対応室あります

BIFレストラン（平日）9:00～20:30（月）11:30～17:00

手作りランチ¥650～ 大小宴会承ります。